

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第4回活力部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしいコメを作ることは収益の向上に繋がらないのか？ ・海岸側はよいコメができないようだが、どういった場所を園芸品目へ転換していこうとしているのか？ ・日本のコメは輸出に適していると思うがどうか？
2		<ul style="list-style-type: none"> ・GPS等を使った機械を入れるには、今の水田は狭く、生産基盤の再造成も必要になる ・中山間地域では、耕地よりも法面の方が広く、高齢者が維持管理に苦労している ・水田はダムの代わり、治水機能であり、それを保全するために何らかの措置が必要
3		<ul style="list-style-type: none"> ・4年後にインボイスが始まるが、その際、高齢者がやめどきと考えるのではないかと心配 ・流通経費も過大であり、関東・関西へ出荷すると2割程度の運賃が必要 ・それなら地場で安く売るとなりかねないため、そういった流通への対応も考えていただきたい
4		<ul style="list-style-type: none"> ・中核林業経営体の中に森林組合も入るといった認識だと思うが、森林組合は法律で「利益を追求してはならない」と定められており、一般の林業事業体とは異なる存在 ・森林組合は行政と一緒に、又は肩代わりをしながら戦後の造林をしてきた団体 ・地域の林業をしっかり守るのは森林組合だが、弱体化してきており、林業事業体と切り離れた体制強化を検討していただけるとよい
5		<ul style="list-style-type: none"> ・再生産価格に関する指標がない ・一般的な作り方の場合、これくらいかかるという指標が出ると、農家にとってコスト削減、高く売ろうとする努力に繋がる ・そのための指標を作っていただきたい
6		<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産業はストックビジネスかと思っていたが、フロービジネスの部分もある ・ストック部分の生産額と、リスクを背負い変動性のある生産額というものを、ビジネスとしては追いかけるものだが、農林水産業でもそういった数字にチャレンジしてもよいのではないか
7	中小企業・小規模事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者の意識改革というのは何をしていくべきか ・成功している企業の事例、経営者の話を聞ける機会が必要
8	労働生産性	<ul style="list-style-type: none"> ・労働生産性の向上について、事業者は自分のところの生産性がどれ位なのか不明 ・県の方から各事業者に教えられるとよいのではないか
9	先端技術	<ul style="list-style-type: none"> ・「イノベーション」に加え、「リノベーション」という言葉を使うことも検討してみてもどうか ・新しい技術を使い、今ある地域課題等を解決、リノベーションしていくという考え方もある
10		<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術の導入には必ずトライアンドエラーがあるため、技術を持ってくるメーカーと我々ユーザーに大きな負担が生じる ・その際の支援があると、メーカーも開発拠点を作ろうかという話になるかもしれないし、ユーザー企業も競争力強化に繋がりがたい
11	産業集積	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビナート企業間の連携について、コンビナートは全国あちこちにあるため、大分でやることに対する支援があるとよい ・設備投資する際には、他社との連携では不確定要素もあるため、やはり自社内投資の案件の方が企業は選びやすい ・投資効果があると示せば大分に投資を持ってきやすくなるため、大分独自の支援策があるとよい ・例えば、装置間を繋ぐトンネル(企業間の共有部分)などにサポートを頂けるとありがたい
12	観光産業	<ul style="list-style-type: none"> ・国内旅行が本当に少ないため、これをどうにかするという記載が少ないのではないか ・儲かる産業とするため、労働生産性の向上が必要 ・インバウンドにとって、国内には星のある宿泊施設が少ないというのが課題
13		<ul style="list-style-type: none"> ・原尻の滝にNPOとしてインフォメーションセンターを設置して1年経過したが、そこで案内する次のルートが重要 ・観光客がどこからどこへ動いているか、定点観測したデータがどれくらいあるのか、ないのなら調べていただきたい

No.	項目	発言要旨
14	観光産業	<ul style="list-style-type: none"> ・RWC後、もっと人が集まるイベントがあってもよいのではないか ・そうすることによって観光など、全体的に人が集まってくる
15		<ul style="list-style-type: none"> ・県立美術館に行こうとする外国人が、大分駅からバスに乗ろうとするのに非常に苦労していた ・路線案内表示の徹底がされているか、されている場合の運用が本気でされているか ・路線案内表示を外国語で紹介する情報が不足しているのではないか
16		<ul style="list-style-type: none"> ・情報は自ら発信するものと、訪れた方に発信してもらうものの二つある ・訪れてもらった観光客の口コミが重要 ・いかに情報発信してもらうかに力を入れて欲しい ・例えば、観光施設等へのQRコードの設置等に対する支援など
17		<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信に力を入れていくとき、インフルエンサーやKOLを活用していきたいが、一企業でバラバラにやろうとすると莫大な費用がかかる ・そのため、複数の企業合同で、大分県のPRを目的に実施しようと計画しているが、そういった民間企業の取組への支援等があるとよい
18	ブランド力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力を伝えたい相手との信頼関係が作れていれば、大分を選んでいただける ・信頼関係の構築には時間がかかるため、しつこいくらいに発信し続けていくことが重要 ・情報発信の対象は観光客だけでなく、県民向けも必要 ・必要な相手に、必要なときに、必要な情報を届けることが必要
19		<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルマーケティングの部分で、インフルエンサー、KOL(キーオピニオンリーダー)という記載もしていただくとよい ・5Gに向け、今後大きく変わってくるのは動画であり、デジタルマーケティングの主流になる ・大分県のよいところを発信していただけるような、インフルエンサー等を対象としたコンテストを開いてみるのもよいのではないか
20		<ul style="list-style-type: none"> ・東京在住の方は通勤時間に多くの時間を割いているが、そういった生活環境の違いなどを利用し、大分県の素晴らしさを見せる取組をしてほしい
21	外国人材	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生が残ってくれるとありがたいが、中小企業にとっては賃金等の条件が厳しい ・一方、外国人労働者を雇用しようとするが、彼らは来日するのに借金が必要だったりするため、県として、来日に係る環境整備ができないか ・例えば、借金に対する保証や空き家を活用した住居の確保など
22		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人との心の壁を解消することが大事 ・そのためには日常的な機会を設けることが大事 ・由布院に在留する外国人は250人おり、交流会を定期的に開催している ・そのような活動への支援をお願いしたい
23		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人労働者の希望する国として、まずドイツ、次に韓国で、最後に日本と聞く ・仕事ではなく生活面での待遇に差があるという理由 ・生活面での待遇に対する支援が必要ではないか
24	空き家の利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の利活用について、古民家は外国人にとって魅力的なもの ・この活用に対する方策、建物の保存の仕組みづくり等を検討していただきたい
25	-	<ul style="list-style-type: none"> ・資料送付が非常に遅い ・時間も限られているため、もっと速く送付していただくとともに、意見交換できる時間を確保して欲しい ・もう少しポジティブな言葉遣いで記載して欲しい(ネガティブなワードが多い)
26	-	<ul style="list-style-type: none"> ・これらの社会において、SDGsやSTEAM教育ということは重要であり、計画の中で触れていただきたい
27	-	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と事業者、生産者がキャッチボールできるような場、機会がもっとあるとよい ・そうすることによって効果的な事業が実施できるのではないか